

## 「シンガポール派遣参加報告書」

京都大学研究科修士 2 回 山森真衣子

以下では、今回の派遣プログラムについて (1) プログラム内容 (2) 学習成果 (3) 海外での経験 (4) 進路への影響、という四つの観点から簡潔に報告する。

### (1) プログラム内容

今回のプログラムでは全 8 回のレクチャーに参加した。アリストテレスやヒューム、カントといった哲学史のレクチャーから、メタ倫理や数理哲学といった現代的なレクチャーまで、様々なテーマのレクチャーに参加させてもらった。事前に合同で予習を行う等の準備をしてからレクチャーに臨んだこともあって英語での議論・質問を活発に行うことができ、非常に有意義なものとなった。

### (2) 学習成果

自分の興味のあるテーマのレクチャーはもちろん、自分の研究内容と離れたテーマのレクチャーを受けたことは、報告者にとって大変有意義なものであった。当該分野について、知識や考え方といった多くのことを学ぶことができたからである。

レクチャーが全て英語で行われたことも、英語の学習という観点からは非常に重要なものであった。英語で考え英語で話す訓練を多く積めたことで、語学力のみならず英語に対する自信を向上させることもできた。

### (3) 海外での経験

報告者にとってシンガポール派遣は昨年に引き続き 2 回目であったため、前回の派遣で知り合った学生や先生と再会することができた。また、Yale-NUS の学部生で哲学に関心を持つ学生達と一緒にディナーを楽しみ、哲学の話だけでなくシンガポールでの大学生活やシンガポールの文化について歓談をし、国際的な親睦を深めることができた。

22 日の夕食後は、その日レクチャーをしてくださった Neil 先生の家で、以前から交流のある Michael Pelczar 先生も招いての楽しいパーティーが行われた。日本ではこのようなパーティーはあまり経験したことがなかったため、日本との文化の違いを感じた。

### (4) 進路への影響

報告者は来年度以降英語圏の大学への留学を考えている。今回の派遣で英語のレクチャーに参加し、語学力が今一歩足りないことを実感し、語学力を向上させなければならないという意識と危機感を新たにした。

以上が今回の派遣プログラムの報告である。昨年に引き続き今年のプログラムも大変実りと学びの多いものだったため、来年度以降も同種のプログラムがあれば是非参加させていただきたい。